



[I]

x の 3 次方程式 $x^3 + 6x^2 - px - q = 0$ (ただし p, q は実数の定数) が相異なる 3 つの実数解をもち、それらを適当に並べると等比数列になるという。1 つの解が 4 であるとき、他の 2 つの解と p, q の値を求めよ。解答欄には答えのみを記入せよ。

【解答】

他の解を α, β とおくと、解と係数の関係より

$$\begin{cases} \alpha + \beta + 4 = -6 & \cdots ① \\ \alpha\beta + 4\alpha + 4\beta = -p & \cdots ② \\ 4\alpha\beta = q & \cdots ③ \end{cases}$$

(i) 4 が中項でないとき $\alpha = 4r, \beta = 4r^2$ とおくと

①より $4r + 4r^2 + 10 = 0$ これは r が虚数となるため不適

(ii) 4 が中項であるとき $\alpha = 4r, \beta = \frac{4}{r}$ とおくと

①より $4r + \frac{r}{4} + 4 = -6$ 整理して $(2r+1)(r+2) = 0$ より $r = -\frac{1}{2}, -2$

②より $16 + 16r + \frac{16}{r} = -p$ いずれの r においても $p = 24$

③より $4 \cdot 4r \cdot \frac{4}{r} = q$ より $q = 64$

以上より 他の 2 つの解は $-8, -2$ および $p = 24, q = 64$

[II]

1 から 6 までの番号をつけた 6 枚のカードから同時に 3 枚を取り出す。引いたカードに書かれている数字を a, b, c とする。O を原点とする xy 平面において 3 点 $(a, a^2), (b, b^2), (c, c^2)$ を頂点とする三角形の面積を S とするとき、以下の各問いの答えのみを解答欄に記せ。

問 1 S を a, b, c を用いて表せ。

問 2 S の最大値と最小値を求めよ。

問 3 S が偶数となる確率を求めよ。

【解答】

問 1 $A(a, a^2), B(b, b^2), C(c, c^2)$ とおく。このとき、

$$\overrightarrow{AB} = \begin{pmatrix} b-a \\ b^2-a^2 \end{pmatrix}, \overrightarrow{AC} = \begin{pmatrix} c-a \\ c^2-a^2 \end{pmatrix}$$

であるから、面積 S は

$$\begin{aligned} S &= \frac{1}{2} |(b-a)(c^2-a^2) - (b^2-a^2)(c-a)| \\ &= \frac{1}{2} |(b-a)(c-a)((c+a)-(b+a))| \\ &= \frac{1}{2} |(a-b)(b-c)(c-a)| \end{aligned}$$

問 2 $a < b < c$ としても一般性を失わない。 $2 \leq c-a \leq 5$ である。

(ア) S が最大となるとき

$c-a=5$ のときを考えればよく、このとき、 $b-a=t$ とおくと、 $c-b=5-t$ である。

$$S = \frac{1}{2} |(5-t) \cdot t \cdot 5|$$

$$= \frac{5}{2} \left| \frac{25}{4} - \left(t - \frac{5}{2}\right)^2 \right|$$

$t=1, 2, 3, 4$ のときを考えればよく、 $t=2, 3$ のとき、 S は最大値 15 となる。

(イ) S が最小となるとき

$c-a=2$ のときを考えればよく、このとき、 $c-b=b-a=1$ である。

このとき、 S の最小値は 1 である。

問 3 (a, b, c) の偶奇で場合分けして考える。

(ア) 偶数が 3 枚出たとき

$a-b, b-c, c-a$ はすべて偶数であるから S は偶数である。

$$\{a, b, c\} = \{2, 4, 6\}$$

(イ) 偶数が 2 枚、奇数が 1 枚出たとき

$a-b, b-c, c-a$ は偶数が 1 つ、奇数が 2 つであるから、 S が偶数になるとき、

$$\{a, b, c\} = \{2, 6, \text{奇数}\}$$

(ウ) 偶数が 1 枚、奇数が 2 枚出たとき

$a-b, b-c, c-a$ は偶数が 1 つ、奇数が 2 つであるから、 S が偶数になるとき、

$$\{a, b, c\} = \{1, 5, \text{偶数}\}$$

(エ) 奇数が 3 枚出たとき

$a-b, b-c, c-a$ はすべて偶数であるから S は偶数である。

$$\{a, b, c\} = \{1, 3, 5\}$$

したがって、(ア)~(エ) より、 (a, b, c) の組合せは 8 通りであり、求める確率は、

$$\frac{8}{6C_3} = \frac{8}{20} = \frac{2}{5}$$



[III]



次の等式を満たす $x > -1$ において定義された微分可能な関数 $f(x)$ を求めよ。

$$f(x) = \log(x+1) + \int_0^x f(x-t) \sin t dt$$

【解答】

$$f(x) = \log(x+1) + \int_0^x f(x-t) \sin t dt \quad \cdots (*)$$

$$x-t=s \text{ とおくと, } dt=-ds$$

t	0 → x
s	x → 0

$$\begin{aligned} \int_0^x f(x-t) \sin t dt &= \int_x^0 f(s) \sin(x-s)(-ds) \\ &= \int_0^x f(s) (\sin x \cos s - \cos x \sin s) ds \\ &= \sin x \cdot \int_0^x f(s) \cos s ds - \cos x \cdot \int_0^x f(s) \sin s ds \end{aligned}$$

したがって、(*) より

$$f(x) = \log(x+1) + \sin x \cdot \int_0^x f(s) \cos s ds - \cos x \cdot \int_0^x f(s) \sin s ds \quad \cdots ①$$

①を x で微分すると、

$$\begin{aligned} f'(x) &= \frac{1}{x+1} + \cos x \cdot \int_0^x f(s) \cos s ds + \sin x \cdot f(x) \cos x \\ &\quad + \sin x \cdot \int_0^x f(s) \sin s ds - \cos x \cdot f(x) \sin x \\ &= \frac{1}{x+1} + \cos x \cdot \int_0^x f(s) \cos s ds + \sin x \cdot \int_0^x f(s) \sin s ds \quad \cdots ② \end{aligned}$$

さらに ②を x で微分すると、

$$\begin{aligned} f''(x) &= -\frac{1}{(x+1)^2} - \sin x \cdot \int_0^x f(s) \cos s ds + \cos x \cdot f(x) \cos x \\ &\quad + \cos x \cdot \int_0^x f(s) \sin s ds + \sin x \cdot f(x) \sin x \\ &= -\frac{1}{(x+1)^2} - \sin x \cdot \int_0^x f(s) \cos s ds + f(x)(\cos^2 x + \sin^2 x) \\ &\quad + \cos x \cdot \int_0^x f(s) \sin s ds \\ &= -\frac{1}{(x+1)^2} - \sin x \cdot \int_0^x f(s) \cos s ds + \cos x \cdot \int_0^x f(s) \sin s ds + f(x) \quad \cdots ③ \end{aligned}$$

ここで、①、③を辺々加えると、

$$f(x) + f''(x) = \log(x+1) - \frac{1}{(x+1)^2} + f(x)$$

$$f''(x) = \log(x+1) - \frac{1}{(x+1)^2} \quad \cdots ④$$

さらに、①、②に $x=0$ を代入すると、

$$f(0)=0, f'(0)=1 \quad \cdots ⑤$$

④より、

$$\begin{aligned} f'(x) &= \int f''(x) dx \\ &= \int \left\{ \log(x+1) - \frac{1}{(x+1)^2} \right\} dx \\ &= (x+1)\log(x+1) - (x+1) + \frac{1}{x+1} + C_1 \end{aligned}$$

⑤より、

$$f'(0)=C_1=1$$

よって、

$$f'(x) = (x+1)\log(x+1) - x + \frac{1}{x+1}$$

これを x で積分すると、

$$\begin{aligned} f(x) &= \int f'(x) dx \\ &= \int \left\{ (x+1)\log(x+1) - x + \frac{1}{x+1} \right\} dx \\ &= \frac{1}{2}(x+1)^2 \log(x+1) - \frac{1}{4}(x+1)^2 - \frac{1}{2}x^2 + \log(x+1) + C_2 \end{aligned}$$

⑤より、

$$f(0) = -\frac{1}{4} + C_2 = 0$$

よって、

$$C_2 = \frac{1}{4}$$

であり、

$$f(x) = \frac{1}{2}(x+1)^2 \log(x+1) + \log(x+1) - \frac{3}{4}x^2 - \frac{1}{2}x$$

となる。

(注) $f(x)$ は 2 回微分可能と解釈した。

YMS数学 後期テキストより的中が出ました!!

YMS数学(後期)テキスト⑤92ページより抜粋

8-2B

(1) 次の等式を満たす関数 $f(x)$ を求めよ。

$$f(x) = \cos 2x + \int_0^\pi f(\pi-t) |\cos t| dt$$

(2) 次の等式を満たす関数 $g(x)$ を求めよ。

$$g(x) = (x^2 + 1)e^{-x} + \int_0^x g(x-t)e^{-t} dt$$



[IV]

複素数 z ($z \neq 0, 2$) に対して

$$w = \frac{1}{|z|^2 - 2z}$$

とおく。複素数 w が純虚数であるときに z が動く複素数平面上の図形を C として、以下の各問いに答えよ。

問1 図形 C を複素数平面上に図示せよ。問2 C 上の z に対して、複素平面上の 3 点 $\frac{5}{6}, z, z^2$ を頂点とする三角形の面積を $S(z)$ とする。このとき、 $S(z)$ の最大値と、最大値を与える z の値をそれぞれ求めよ。

【解答】

問1 w が純虚数である条件は

$$\operatorname{Re}(w) = \frac{w + \overline{w}}{2} = \frac{1}{2} \left(\frac{1}{|z|^2 - 2z} + \frac{1}{|z|^2 - 2\bar{z}} \right) = 0$$

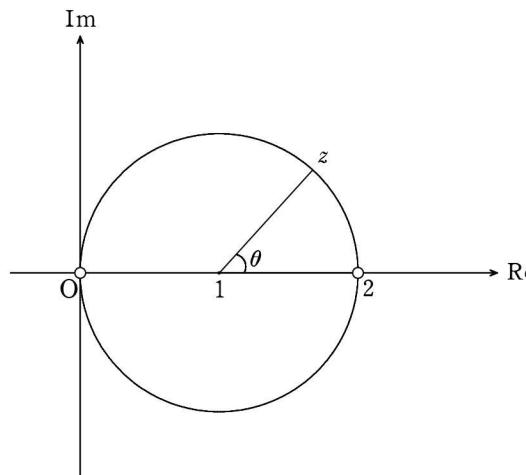
両辺 $(|z|^2 - 2z)(|z|^2 - 2\bar{z})$ をかけると

$$\overline{z}(z-2) + z(\overline{z}-2) = 0$$

整理して

$$(z-1)(\overline{z}-1) = 1$$

$$|z-1| = 1$$

以上より、求める図形 C は点 1 を中心とする円から点 0, 2 を除いたものである。

問2 問1の図において

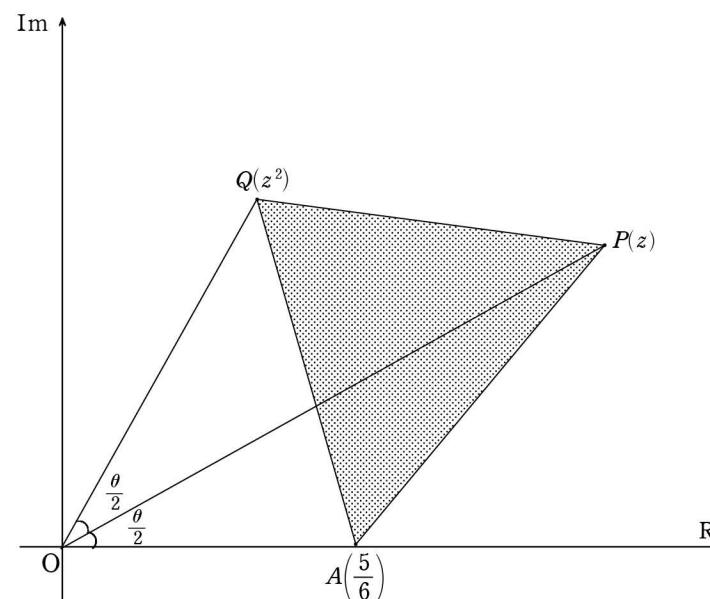
$$z = (1 + \cos \theta) + i \sin \theta$$

とおく。(対称性より $0 < \theta < \pi$ としてよい)

$$z = 2 \cos^2 \frac{\theta}{2} + i \cdot 2 \sin \frac{\theta}{2} \cos \frac{\theta}{2} = 2 \cos \frac{\theta}{2} \left(\cos \frac{\theta}{2} + i \sin \frac{\theta}{2} \right)$$

$$z^2 = 4 \cos^2 \frac{\theta}{2} (\cos \theta + i \sin \theta)$$

より、題意の三角形は図のようになる。



したがって

$$\begin{aligned} S(z) &= \triangle OAP + \triangle OPQ - \triangle OAQ \\ &= \frac{1}{2} \frac{5}{6} 2 \cos \frac{\theta}{2} \sin \frac{\theta}{2} + \frac{1}{2} 2 \cos \frac{\theta}{2} 4 \cos^2 \frac{\theta}{2} \sin \frac{\theta}{2} - \frac{1}{2} \frac{5}{6} 4 \cos^2 \frac{\theta}{2} \sin \theta \\ &= \frac{1}{2} \sin \frac{\theta}{2} \cos \frac{\theta}{2} \left(\frac{5}{3} + 8 \cos^2 \frac{\theta}{2} - \frac{20}{3} \cos^2 \frac{\theta}{2} \right) \\ &= \frac{1}{4} \sin \theta \left(\frac{4}{3} \cos^2 \frac{\theta}{2} + \frac{5}{3} \right) \\ &= \frac{1}{12} \sin \theta (2 \cos \theta + 7) \end{aligned}$$

これを $f(\theta)$ とおくと

$$f'(\theta) = \frac{1}{12} (4 \cos^2 \theta + 7 \cos \theta - 2) = \frac{1}{12} (4 \cos \theta - 1)(\cos \theta + 2)$$

より、 $\cos \theta_0 = \frac{1}{4}$, $\sin \theta_0 = \frac{\sqrt{15}}{4}$ をみたす θ_0 で極大かつ最大となる。

以上より

$$S \text{ の最大値は } f(\theta_0) = \frac{1}{12} \cdot \frac{\sqrt{15}}{4} \left(2 \cdot \frac{1}{4} + 7 \right) = \frac{5\sqrt{15}}{32}$$

そのときの z は対称性を考えて

$$z = 1 + \cos \theta_0 \pm i \sin \theta_0 = \frac{5}{4} \pm \frac{\sqrt{15}}{4} i$$



[V]

Cは2点A, Bを焦点とする椭円とし, $AB=2\sqrt{3}$, Cの長軸の長さが4であるとする。C上の点で長軸上にない点をPとする。直線PAがPと異なる点でCと交わる点をQとし, 直線PBがPと異なる点でCと交わる点をRとする。また線分ARと線分BQの交点をSとする。 $\vec{a}=\overrightarrow{PA}$, $\vec{b}=\overrightarrow{PB}$ とし, $l=|\vec{a}|$ とおくとき, 以下の各問に答えよ。

問1 l の値の範囲を求めよ(答えのみでよい)。

問2 $\overrightarrow{PQ}=(1+s)\vec{a}$, $\overrightarrow{PR}=(1+t)\vec{b}$ を満たす実数 s , t を, l を用いて表せ。

問3 $\overrightarrow{PS}=u\vec{a}+v\vec{b}$ を満たす実数 u , v を, l を用いて表せ。

問4 三角形SABの面積を T_1 , 三角形SQRの面積を T_2 とする。 $8T_1=3T_2$ を満たす l の値を求めよ。

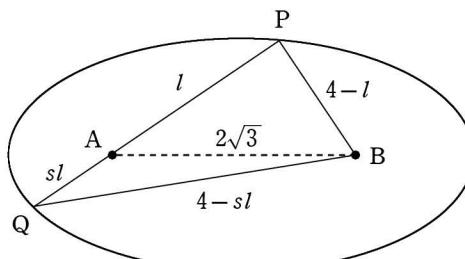
問1 焦点Aから長軸の両端までの距離は,

$$\text{小さい方が } \frac{4-2\sqrt{3}}{2}=2-\sqrt{3}, \text{ 大きい方が } (2-\sqrt{3})+2\sqrt{3}=2+\sqrt{3} \text{ である。}$$

点Pが長軸上にないことにも注意して,

$$2-\sqrt{3} < l < 2+\sqrt{3} \quad \cdots \text{問}$$

問2



$$PA+PB=4, PA=l \text{ より, } PB=4-l$$

$$\overrightarrow{PQ}=(1+s)\vec{a} \iff \overrightarrow{PQ}-\overrightarrow{PA}=\vec{s}\vec{a} \iff \overrightarrow{AQ}=\vec{s}\vec{a} \text{ より, } QA=s\vec{a}$$

これと, $QA+QB=4$ より, $QB=4-s\vec{a}$

$\triangle ABP$ に余弦定理を用いて,

$$\cos \angle BAP = \frac{(2\sqrt{3})^2 + l^2 - (4-l)^2}{2 \cdot 2\sqrt{3}l} = \frac{2l-1}{\sqrt{3}l} \quad \cdots \text{①}$$

次に, $\triangle ABQ$ に余弦定理を用いる。これは①において l を $s\vec{a}$ に置き換えるべき

$$\cos \angle BAQ = \frac{2sl-1}{\sqrt{3}sl}$$

$\angle BAP + \angle BAQ = \pi$ であるから, $\cos \angle BAP + \cos \angle BAQ = 0$ であり,

$$\frac{2l-1}{\sqrt{3}l} + \frac{2sl-1}{\sqrt{3}sl} = 0 \iff 2l-1 + \frac{2sl-1}{s} = 0 \iff 4l-1 - \frac{1}{s} = 0$$

したがって,

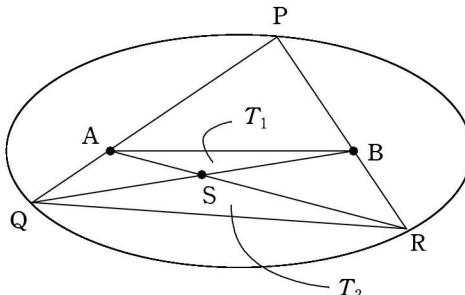
$$s = \frac{1}{4l-1} \quad \cdots \text{問}$$

$$PB=4-l, \overrightarrow{PR}=(1+t)\vec{b} \iff \overrightarrow{BR}=t\vec{b} \text{ より, }$$

$$s = \frac{1}{4l-1} \text{ の } s, l \text{ をそれぞれ } t, 4-l \text{ に置き換えて,}$$

問3

$$t = \frac{1}{4(4-l)-1} = \frac{1}{15-4l} \quad \cdots \text{問}$$



$$PA : AQ = 1 : s = (4l-1) : 1 \text{ かつ } PB : BQ = 1 : t = (15-4l) : 1$$

メネラウスの定理より,

$$\frac{PQ}{QA} \cdot \frac{AS}{SR} \cdot \frac{RB}{BP} = 1 \iff \frac{4l}{1} \cdot \frac{AS}{SR} \cdot \frac{1}{15-4l} = 1 \iff \frac{AS}{SR} = \frac{15-4l}{4l}$$

したがって,

$$\begin{aligned} \overrightarrow{PS} &= \frac{4l\overrightarrow{PA} + (15-4l)\overrightarrow{PR}}{(15-4l)+4l} = \frac{4l\vec{a}}{15} + \frac{15-4l}{15} \cdot \frac{16-4l}{15-4l}\vec{b} \\ &= \frac{4l}{15}\vec{a} + \frac{16-4l}{15}\vec{b} \end{aligned}$$

\vec{a}, \vec{b} は1次独立であるから, $\overrightarrow{PS}=u\vec{a}+v\vec{b}$ を満たす実数 u, v は,

$$u = \frac{4l}{15}, \quad v = \frac{16-4l}{15} \quad \cdots \text{問}$$

問4 メネラウスの定理より,

$$\frac{PR}{RB} \cdot \frac{BS}{SQ} \cdot \frac{QA}{AP} = 1 \iff \frac{16-4l}{1} \cdot \frac{BS}{SQ} \cdot \frac{1}{4l-1} = 1 \iff \frac{BS}{SQ} = \frac{4l-1}{16-4l}$$

したがって,

$$\frac{T_1}{T_2} = \frac{SA \cdot SB}{SQ \cdot SR} = \frac{(15-4l)(4l-1)}{(16-4l) \cdot 4l} = \frac{-15+64l-16l^2}{16(4l-l^2)}$$

求める条件は,

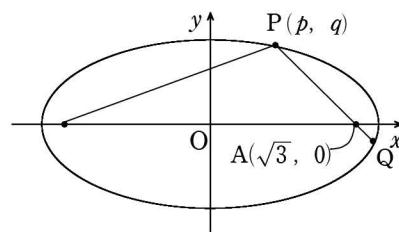
$$\frac{T_1}{T_2} = \frac{3}{8} \iff \frac{-15+64l-16l^2}{16(4l-l^2)} = \frac{3}{8} \iff 2l^2 - 8l + 3 = 0$$

これを解くと, $l = \frac{4 \pm \sqrt{10}}{2}$ となり, これは $2-\sqrt{3} < l < 2+\sqrt{3}$ を満たす。

$$l = \frac{4 \pm \sqrt{10}}{2} \quad \cdots \text{問}$$

別解

問2



椭円 C を xy 平面上におき, その方程式を $\frac{x^2}{a^2} + \frac{y^2}{b^2} = 1 (a > b > 0)$ とおく。

$AB=2\sqrt{3}$ より, 焦点の座標は $A(\sqrt{3}, 0)$, $B(-\sqrt{3}, 0)$ となり, $\sqrt{a^2-b^2}=\sqrt{3}$ また, 長軸の長さは4であるから, $2a=4$

したがって, $a=2, b=1$ となり,

$$C : x^2 + 4y^2 = 4$$

点Pの座標を (p, q) とおくと, $p^2 + 4q^2 = 4 \quad \cdots \text{②}$

また, $PA=l$ より, $(p-\sqrt{3})^2 + q^2 = l^2 \quad \cdots \text{③}$

②, ③から, q を消去すると,

$$\begin{aligned} p^2 + 4[l^2 - (p-\sqrt{3})^2] &= 4 \iff 3p^2 - 8\sqrt{3}p + 16 = 4l^2 \\ &\iff (\sqrt{3}p-4)^2 = (2l)^2 \end{aligned}$$

$-2 < p < 2$ より, $\sqrt{3}p-4 < 0$ であるから,

$$\sqrt{3}p-4 = -2l \iff p = \frac{4-2l}{\sqrt{3}}$$

次に,

$$\begin{aligned} \overrightarrow{OQ} &= \overrightarrow{OP} + (1+s)\vec{a} = (p, q) + (1+s)(\sqrt{3}-p, -q) \\ &= (\sqrt{3}(1+s) - sp, -sq) \end{aligned}$$

であり, 点QもC上にあるから,

$$(\sqrt{3}(1+s) - sp)^2 + 4(-sq)^2 = 4$$

$$\iff 3(1+s)^2 - 2\sqrt{3}(1+s)sp + s^2p^2 + s^2 \cdot 4q^2 = 4$$

$$\iff 3(1+s)^2 - 2\sqrt{3}(1+s)sp + s^2p^2 + s^2(4-p^2) = 4$$

$$\iff 7s^2 + 6s - 1 = 2\sqrt{3}(1+s)sp$$

$$\iff (s+1)(7s-1) = 2\sqrt{3}(1+s)sp$$

$s > 0$ より,

$$7 - \frac{1}{s} = 2\sqrt{3}p = 2\sqrt{3} \cdot \frac{4-2l}{\sqrt{3}} = 8-4l$$

したがって,

$$s = \frac{1}{4l-1} \quad \cdots \text{問}$$

また, $s = \frac{1}{4l-1}$ の s, l をそれぞれ $t, 4-l$ に置き換えて,

$$t = \frac{1}{4(4-l)-1} = \frac{1}{15-4l} \quad \cdots \text{問}$$

YMS数学(前期)テキスト②105ページより抜粋

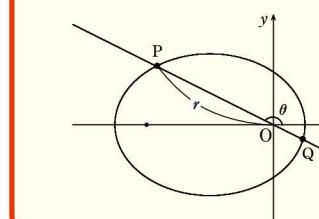
11-6C

直交座標において、原点Oと直線 $x=5$ からの距離の比が $2:3$ である点 $P(x, y)$ の軌跡を C とする。

(1) 曲線 C の直交座標に関する方程式を求めよ。

(2) 曲線 C の極方程式を求めよ。

(3) この椭円の原点Oを通る任意の弦を PQ とするとき, $\frac{1}{OP} + \frac{1}{OQ}$ の値を求めよ。



解答

$$(1) 3\sqrt{x^2+y^2} = 2|x-5| \text{ より, } 9(x^2+y^2) = 4(x-5)^2 \iff \frac{(x+4)^2}{36} + \frac{y^2}{20} = 1$$

$$(2) 3r = 2(5 - r\cos\theta) \text{ より, } r = \frac{10}{3+2\cos\theta}$$

$$(3) P(r, \theta), Q(r', \theta+\pi) \text{とおくと, } \frac{1}{OP} + \frac{1}{OQ} = r+r' = \frac{3+2\cos\theta}{10} + \frac{3+2\cos(\theta+\pi)}{10} = \frac{3}{5}$$

YMS数学 前期テキストより的中が出ました!!



【講評】

昨年に引き続き5題構成となった。
 難易度、分量、大きな変化はみられなかった。
 一次突破ラインは **55 %** 程度だと思われる。

[I] : 3次方程式の解と等比数列

解と係数の関係および等比中項を用いて残りの解を求める。
 問題の条件をそのまま式で表し解けばよい。難易度は標準。

[II] : 確率

前年度に引き続き確率が出題された。解いてみるとそこまで難しくはないが、
 確率を苦手とする人は多いため意外と差がついたことだろう。難易度は標準。

[III] : 積分方程式

置換をして、加法定理で \sin の中身をバラバラにし、微分する。
 類題を経験したことがある人は勇気をもって2回微分まで考えることができただろう。
 ただし、計算力が問われるため完答できた人はそこまで多くないと予想される。難易度は標準。

[IV] : 複素数平面

(2)の計算がポイント。極方程式(極形式)を用い、面積を偏角で表し、微分して最大値を求める。極の取り方によっては計算が煩雑になり、差がついたことだろう。難易度はやや難。

[V] : 2次曲線・極方程式・ベクトル

(2)を乗り越えられたかどうかがポイントになる。橢円の定義から、PB, QB の長さを l と s を用いて表し、余弦定理を用いると計算は軽い。また、焦点を通る直線と橢円という設定から極方程式を思いつければ求められただろう。
 それ以降も正確な計算が必要になり完答は難しいと思われる。難易度はやや難。

各大学医学部の入試傾向に完全対応!

直前講習会

1/20 (土)	日医(前)最終	2/2 (金)	慈恵最終
1/24 (水)	昭和I最終	2/6(火)~7(水)	日大
1/29 (月)	聖マリ最終		

各大学の二次試験の要点解説と面接対策

二次試験対策

過去の受験生からの貴重な情報をもとに、各大学の二次試験の要点解説、本番に即した面接演習を行います。
 高い合格実績を誇るYMSがあなたを合格へと導きます。

申し込み受付中です。詳細はYMSホームページをご覧いただけます。

YMS 〒151-0053 東京都渋谷区代々木1-37-14
<http://yms.ne.jp/>

TEL 03-3370-0410